

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム虹の家琴似	評価実施年月日	平成19年7月15日
評価実施構成員氏名	森田英子・尾池悠・金濱律子・金谷昌子・畠山玲子・大極初恵 渡辺京子・吉澤のぶ		
記録者氏名	吉澤のぶ	記録年月日	平成19年8月8日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	家庭的な雰囲気の中で地域密着型サービスとして理解し、その中でその人らしく暮らしていける安心のある生活の理念に取り組んでいる。	ホームの理念に沿い日々入居者に関わる時、理念を具体的なケアにしていけることを意識して取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に基づいて入居者が安心出来る生活作りを一緒に行うことに取り組んでいる。	入居者一人ひとりを尊重する支援のあり方や日常生活での安全確保、健康管理をし、安心できるための支援に取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議が発足して町内会の皆様方がホームに来られ日々の活動を十分に理解してもらえるよう説明し、地域の住民の方に知ってもらえるよう取り組んでいる。	町内会や地域の集まりに参加し、又ホームを見学される場面ではわかり易く説明してホーム便りを地域の人に伝えている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	4月になり暖かい天候になると洗濯物干しの時や玄関前の花壇作り、近くの公園などに出掛け隣近所の人達に気軽に挨拶したり、隣の喫茶店に行きコーヒータイムをしたり日常的な付き合いが出来るよう努めている。	少しずつ自分たちのホームの草むしりだけではなく周辺の道路の落ち葉やゴミ拾い、草むしり等ゴミ袋を片手に散歩しながら取り組んでいる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議が制度化され、グループホームの事、認知症という病気の事を1回目の会議で説明をしたところ意外にもとても関心を持って聞いて頂いた。自治会や老人会などにも認知症の事が取り上げられるように努めている。	2回目の運営推進会議では、自治会、老人会、町内会の方々がホーム見学し、更にボランティアでフラダンスが訪れていたため皆さんも一緒に参加していただき、また機会があれば参加したいと感激され、少しでもホーム内の様子に理解を深めてくれるよう取り組んでいる。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員や入居者が役に立つことがあればいつでも協力することが出来る。	○ これからホームの人達が地域のために出来ることはないか、次回の会議の場で話し合いを持って取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	各自、自己評価し、再度職員と話し合い、年に1回外部評価を実施し、改善すべき所は、職員全員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果は点数だけでなく、受け取った後全員で話し合う機会を持って改善に向けた計画内容や、課題について取り組んでいる。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議で入居者の日々の活動内容等安心と信頼できるケアサービスの報告を行い意見や要望をサービスの向上に活かしている。	結果を受け止め更に評価への取り組みについて話し合い、よりよいサービスに向け取り組んでいる。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市や区のグループホーム管理者会議にも出席したり、他グループホーム等にも出向き、参考になる所は取り入れたり工夫をしている。	研修や勉強会に出来るだけ進んで参加し内部研修を開いて職員に報告している。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	成年後見制度についての研修等に参加し、勉強会を開き、必要な人には活用出来るよう支援している。	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	当グループホームではありえないことであるが、勉強会を開いて理解し今後も虐待がないよう取り組んでいる。	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入居に関する説明を十分行い、退居に関しても家族に不安なく納得のいくよう実施している。重度化、医療連携体制についても説明し同意を得て理解、納得を図っている。	退居する場合、家族にも十分な説明をして、退居先についても相談しながら支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>私たちは常に入居者の方を向いて何を求めているのかを考えて行動し、個々に話を聞くようにしている。</p>		<p>安心して生活出来るよう、入居者の意見も聞き不満のないよう話し合うように取り組んでいる。</p>
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月、虹の家便りに行事や日常の様子、又毎月金銭報告及び個々に家族とは情報交換を実施している。家族の面会時には日頃の様子、体調など定期的に報告している。</p>		<p>インターネット上のホームページにおいても近況報告を行っている。</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見、不満、苦情箱を設置しているが今までにそのようなことはない。</p>		<p>ご家族が面会にこられた時に口頭で直接言ってもらっている関係なのでこれからもホームとご家族が信頼関係のもと、相談出来るよう取り組んでいく。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月2回位ミーティングを開き職員の意見や要望を聞き、働く意欲にもつながるよう全員で話し合う機会を設け反映させている。</p>		<p>職員の意見を反映させ質の向上にもつなげる取り組みをしている。</p>
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員との話し合いで柔軟な対応が出来るよう勤務の調整は出来ている。</p>		<p>職員が公休でも状況によっては皆協力的なので必要とあれば確保出来る体勢がとれる。</p>
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職する人の事は入居者には事情を説明はしていない。そっと触れないように配慮している。</p>		<p>新しい職員が入ると前の事は忘れてしまったり、新しい職員の方に興味を持って接してくれています。入居者の方にも教えてもらうよう取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	より良いサービスが提供出来るように段階に応じた研修には、なるべく全員が受講できるよう順次参加してもらおうよう取り組んでいる。	内部研修や勉強会などして外部研修で得た知識を発表してもらい他職員と共有し、ケアの実践に取り組んでいる。又研修報告書は常に閲覧できるようにしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区のグループホーム同士、交流を持つために見学したり救急の対応などの勉強会を開催しサービスの質を向上させていく取り組みを実施している。	これからも他グループホームのいい所を取り入れケアサービスに活かす取り組みをし、管理者会議にも出席し意見交換や情報交換に役立てる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の話聞き、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。又ストレスが軽減できるよう職員の声に耳を傾けるよう努めている。	交代で休憩を取り入居者と離れた場所でリラックス、気分転換出来るようにし、職員の疲労やストレス緩和することに取り組んでいる。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	認知症ケアに関心をよせ、運営の安定のために勤務状況を把握して各自向上心を持って働けるよう努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	虹の家に適した利用者であるか、家族からの話し合いや病歴や本人自身もこれからどう生活していくか等、十分検討し入居に取り組んでいる。	入居が決定すると本人に安心して頂く為にも私達はその人をよく見て、苦しんでいる事、困っている事、求めている事などの状況を把握して信頼関係をつくる事に取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	出来るだけ家族の方と話し合い、不安な事、求めている事などをよく聴き、家族が納得されるような説明を実施している。	家族の方もホーム側はどこまで対応してくれるのか、不安で困った事は十分話し合い安心して頂けるような取り組みをしている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームの内容を説明し、本人は何を求めているのかなど聞き出し、今までの暮らしや生き方など参考にして出来る事は行って頂いて出来ないと思うことでも支援を見極め方策を考えて取り組んでいる。		その人にとって何が必要で何が不要でないかホームにとっても出来る限りの対応に努めるが必要に応じて他のサービス利用も可能であるなら取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居決定後、それまでの暮らしや生き方など職員にも把握してもらい、又入居者の中でリーダー的な人にホームの雰囲気を徐々に馴染めるよう仲良くして頂きながら職員も何を求めて何をケアしていくのかを家族と相談しながら取り組み実施している。		入居する前に見学に来て雰囲気に馴染んで頂き他入居者同士にしても触れ合ったり交流する機会を持って自然に溶け込んでいくように取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	居室の掃除、衣類の整理整頓など本人の出来る事等を職員と会話しながら行い、個々の雰囲気や表情、しぐさなどから情報を得ている。その中で共に学びお互いに支え合う関係作りに取り組んでいる。		見守りながら日常生活の過ごし方や周囲とのつながりなど繰り返し伝えていくよう常に入居者の立場に立ち取り組んでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の気がかりな事や本人の要望など何でも気軽に話し合い家族と支え合う関係作りに取り組んでいる。		気軽にホームに立ち寄って頂いたり、ホームの行事等には家族を誘い一緒に過ごす時間を持って頂き本人と触れ合い共に喜んでもらうよう取り組んでいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の面会時は日頃の本人の暮らしぶりやレクリエーションやボランティアなど楽しんでいる様子や他入居者とのより良い関係が築いていけるよう支援している事を話し、家族の方に安心して頂けるように努めている。		入居者と家族の絆を深めホームで一緒に過ごされている写真も身内の方に差し上げたり、今の様子に安心される場面作りに取り組んでいる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の身内や友人など積極的に気軽に訪ねて来てくれるよう声掛けし今まで支え合ってきた人達との関係が途切れないよう支援している。		入居者の身内や親しい人が会いに来てくれたり、電話などで近況報告したりと繋がりを継続できるよう支援に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士仲良く過ごせる機会を作り孤立しないように、又入居者の仲の善し悪しに配慮し、皆で楽しく支え合うよう働きかけ実施している。		新しく入った入居者は孤立しがちなので世話役の人の力を借りてなるべくホームに溶け込むような場面作りに取り組んでいる。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者は何を求めているのかアセスメントを行い、日々の暮らしの中から出来ること、出来ないことを明らかにし暮らしの希望や意向を一人ひとり把握して、それが困難な場合は家族や関係者から情報を頂くように取り組んでいる。		入居者一人ひとりの具体的な思いを明らかにして職員全員と話し合いの場を持ちケアプランを作成する事に取り組んでいる。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人や家族からこれまでの生活歴や過去の小さな事でも具体的な情報を頂き、又どのようなサービスの利用を受けていたか把握し、本人の全体像を知る取り組みを実施している。		入居者の生活してきた環境の中で一人ひとり個別にその入居者の特徴をまとめて援助計画に取り組んでいる。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとり24時間日々の様子を記録し、小さな動作や言動にも注意し、変化をまとめ介護実践に活かしている。		一人ひとり心身状態に配慮した具体的な介護計画を職員全員が把握するよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアマネや職員の意見交換しながら、家族、本人の意見や要望など聞き介護計画に反映した取り組みを実施している。		ケアマネと職員全員でケアカンファレンスを開き又家族と話し合う機会を設け介護計画の見直しを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の実施期間が終了し、対応できないのは継続し、又新しい要望や変化に応じた見直しを家族、本人と話し合い実施している。		介護計画を見直し、身体機能だけではなく、精神的に安定する具体的なケアプラン作成に取り組んでいる。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者それぞれ日々の様子、食事や水分量、排泄や身体状況、本人の言葉・訴えや要望など記録し介護計画の見直しに活かすよう取り組んでいる。		日々の生活の様子に変化やケアに必要とする事など個別に記録に記入し見直しに活かすよう、職員間の情報や入居者の気づきなどに印をつけてわかるよう取り組んでいる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者やその家族の要望に応じて通院や送迎に必要な支援をしている。		日々入居者と接する中で変化する状況や重度化していく状況等、家族との話し合いで要望に応じて必要な時に必要なサービスを柔軟に職員が提供するよう取り組んでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回、ギター演奏、フラダンス、合唱団が訪問して下さり、又消防訓練を消防署にお願いし訓練を行い、地域での暮らしを続けられるよう又町内の地域資源と協働し活用できるよう連絡を取り実施している。		ギター演奏では皆さんで歌い、フラダンスは先生と踊り皆さん生き生きと楽しんでいます。又地域への呼びかけで新たなボランティアの方が来て下さる事になり楽しみにしています。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者本人の希望で近隣の美容室に行かれたり昔から利用していた理容室の方に訪問して頂きサービスを利用するための支援をしている。		美容室も理容室も地域の人に分かってもらい又他入居者も利用される。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に一度運営推進会議の場において日々の活動状況を発表し、地域包括センターの人達から評価や助言等を頂いている。		運営推進会議に地域包括センターの職員が参加することで質の確保、向上に向けた行動、周辺情報や情報交換を築き協働し取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>毎月2回医師による訪問診療や毎週1回訪問看護に来られバイタル測定や体調に変化はないか入居者に話しかけられ相談できる関係を持っている。</p>		<p>入居者の受診結果で処方薬に変化等があった場合はその都度職員に伝え把握し、健康管理に気を付けて支援し、複数の医療機関と関係を密にすることに取り組んでいる。</p>
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症の診断や治療、医療の対応が入居者個々にできている。</p>		<p>定期診療で入居者一人ひとりの健康状態や認知症についての指示や助言をもらい職員にも把握できるよう申し送り取り組んでいる。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>訪問看護契約を確保しているので気軽に相談しながら日常の健康管理や医療面で助言や対応を実施している。</p>		<p>訪問診療の医師や看護師とは24時間提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者が入院した場合、入院先には本人の支援方法に関する情報や普段の状況等病院関係者と話し合いを行い、又なるべく早く退院できるよう家族や病院側の回復状況等退院支援に努め実施している。</p>		<p>入院した場合、本人を元気づけるためにも職員と見舞いに行き家族とも協働しながら本人に必要な支援を行うことに取り組んでいる。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合早い段階から家族や医師等と話し合い入居者並びに家族の希望を最大限に尊重するよう対応している。</p>		<p>本人や家族がどうあったらいいのか、繰り返しの段階から家族、医師、ホーム側と方針や具体的な話し合いを持つことに取り組んでいる。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>入居者、家族やホーム、医療機関が一丸となって取り組めるよう家族や医療機関とチームとしての連携に努めている。職員の力量も鑑み、急変した場合は緊急時に対応して頂けるよう取り組んでいる。</p>		<p>本人の気持ちを尊重し、家族の協力を得ながら入居者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退居に当たっては、契約書に基づいて家族と十分話し合い、納得された上で住み替えられている。</p>		<p>他のホームに移られた場合、アセスメントやケアプラン、本人の状況、習慣、好みや支援状況を提供し環境や暮らし方の継続性等に配慮して頂けるよう働きかけていくことに取り組んでいる。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保を徹底し、入居者の尊厳と権利を守ることに取り組んでいる。</p>		<p>すべての職員が個人情報保護法の理解に努め秘密保持の徹底に取り組んでいる。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者が食べたいメニューや調理の下ごしらえ等、本人が決める場面作りを実施している。</p>		<p>天候の良い日は散歩、草むしりなど入居者が希望しそれに応じて柔軟に職員と一緒に見守りながら生活している。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ゆっくり、楽しく一緒にその人のペースに合った暮らしができるよう希望に添って支援している。</p>		<p>入居者一人ひとりのその日の過ごし方を尊重し、おしゃべりを楽しんだり、買い物や散歩に出掛けたりと個性のある支援に取り組んでいる。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりの個性を大切に髪型や服装等、本人の好みや意向に添ってさりげなく支援している。</p>		<p>入居者本人が美容室に行きたいと希望し、又本人の馴染みの床屋に行き会話することで楽しみにもつながるので、これからも取り組んで行きたい。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>旬の食材を取り入れ、好き嫌いがある人には、調理を工夫したり、代替したりとその人に合わせた食事が出来るよう実施している。</p>		<p>食後はほとんどの人は下膳をし、「ごちそうさま、美味しかったよ」の声に職員も嬉しく「はい」。食器洗いも職員と一緒にしています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日、午前中にラジオ体操の後はコーヒー、ココア、カフェオレ、牛乳等本人の好みのものを一人ひとり日常的に楽しんで頂けるよう支援している。		お酒やタバコは該当者なし。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るだけオムツの使用を少なく済むようにトイレ誘導をしたり排泄のパターンを把握している。入居者の1人は4月からパットが外れ本人も喜んでいきます。		出来るだけ自立に向けトイレで排泄するよう排尿チェックで時間を見計らって周囲への配慮をしながら支援し取り組んでいる。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者がいつでも入浴できるよう一人ひとり個別に合った入浴を楽しめるよう支援している。		入浴を嫌がる人には本人の意向を第一に、無理せず気分の良い日に入浴できるよう支援している。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者の睡眠パターンを職員は把握しているので、夜眠れない入居者にはホットミルクなどの提供をしている。		眠れない入居者には医師と相談し、ビタミン剤を服用し安心して眠れるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者一人ひとりに合った役割があり、洗濯干し、食器洗い、洗面所の掃除、玄関掃除、新聞取り、ブラインド開け、フキン縫い、又楽しみごととしてオセロ、トランプ、花札、玉入れ等の場面作りを実施している。		入居者の出来る力を最大限に活かし、昔作った塩辛、おから、漬物などを作ったり、指南したりと自分らしく暮らせるよう支援し、これからも取り組んでいく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者がお金を持つ大切さは理解し、本人が買いに行きたい場合は付き添い、買い物楽しく出来るよう支援している。		全員ではないが自分の希望により小遣いを持ち近所の店に行き本人が支払えるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くに公園があるので職員と入居者、車椅子使用の人も出来るだけ外に出て気分転換やストレス発散が出来るよう取り組んでいる。		隣に喫茶店があるので、入居者同士で気晴らしに出掛けられたり、家族の方と外出したり買い物帰りに昼食を食べてもらえる場面もある。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事での外出は季節ごとに実施しているし、入居者の家族にも声を掛け一緒に出掛けられる機会を作り実施している。		家族の協力を得て、もっと入居者と一緒に行きたい所に行けるよう取り組んでいきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者本人から身内や友人などに電話をかけたいと申し出る。		電話の会話が他入居者に聞こえないよう居室で話しが出来るよう配慮している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者の家族がいつでも気軽に訪問できる雰囲気を作り居間でくつろぎ居心地よく過ごせるよう工夫している。		入居者も一緒にお話ししたり、自由にコーヒーも入れられたりリラックスして過ごせるようにしている。又地方から来られた人にゆっくり泊まってもらうなど配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアを実践している。		入居者の人権を守り、どんな事があっても拘束を行わず、入居者が安心出来るケアに取り組んでいる。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中鍵はかけていない。入居者の出入りには察知、把握のため玄関入り口にブザーを付け対応している。		入居者が外出しそうな様子を見抜いた時はさりげなく声掛けし気分転換に職員と一緒に行動している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に入居者に目配りし、一人ひとりを把握し、夜間トイレも入居者の様子も行動に気を付けて見守っている。		職員は入居者の一日を記録や申し送り等で全員の状況を把握し、24時間入居者の安全に配慮している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁など使用した後は鍵を付けている。その他洗剤等にはカーテンで目隠しするなど危険防止に取り組んでいる。		入居者に危険な物にはその都度注意を促し、保管管理が必要な物は厳重に管理している。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災などこれらの事故防止に努め、又ヒヤリハットを記録し、発生した場合は事故報告書を作成し事故原因や今後の予防策について検討し、家族へ説明、報告している。		日頃からヒヤリハットの報告や危険と思う気づきを収集し、職員全員で事故防止に活かしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時のマニュアルや申し送りなど知識と実践の資料がファイルにある。夜勤時で目を通し実際の場面で活かせる技術を身に付けている。		救急対応や必要な応急手当などの研修や講習などに参加し、全職員が対応できるように取り組んでいる。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に4～5回火災訓練や避難訓練を定期的に行い職員全員で災害時対策に関する話し合いや支援体制の整備に取り組んでいる。		区の消防署の協力を得て消火訓練や入居者が避難する場所に誘導したり、消火器の使用方法を発生時に備えて訓練を繰り返すことに取り組んでいる。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	調理の手伝いをして頂けば包丁で指を切ることもあれば外出すれば転倒することもある。生活していれば当然な事で家族へは十分説明し、理解を得られるよう努めている。		見守っても注意しても怪我をする可能性もある。普通に生活する中で身体を動かし、抑圧感のない暮らしの中で残存機能を活かすよう支援している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	身体の様況や異常を早期に発見した時はバイタルチェックを行い記録に残し、状況によっては医療受診につなげる。		入居者一人ひとり体調の変化など記録に残し、普段の様況は職員が把握しているので少しでも食欲など様子の変化があった場合は早期対応に結びつける行動に取り組んでいる。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者が使用している薬の目的や副作用、用法や用量については医師の指示のもと服用している。又状況の変化もチェックし記録も記載している。		入居者の服薬に変更があった場合は、職員全員に伝えている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	なるべく食物繊維の多い食事を取り入れたり、水分摂取にも心がけ自然排便を促す工夫を個別にしている。		入居者一人ひとりの排便チェック表を付けており、一人ひとり食事の工夫や運動など行う等個別に取り組んでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者一人ひとり、口腔内の清潔保持に努め、臭いが生じないように口腔ケアを日常的に行うよう支援している。		食後の歯磨き、うがいなど一人ひとりに促し、出来ないところは職員が介助し就寝前には必ず入れ歯も磨き、異常があれば歯科に訪診して頂いている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりの食べる量や水分摂取量は記録し把握している。		栄養士がカロリーや栄養バランスに偏りがないよう支援している。又食べられないものがある人には代替をつけている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者も職員も手洗いを習慣とし、細かなマニュアルを作成し職員全員で学習して感染症の予防対策に努めている。		食事前は石鹸で必ず手を洗い、ペーパータオルを使用し予防も徹底し、年に1回インフルエンザ予防接種を受けている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、布きん、まな板を漂白殺菌し、食器も熱湯で消毒している。食材は毎日配達され足りない物は買いに行く。		食材もその都度なので使い切っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		町内の方々からもお花を頂いたり、ホームの周りの草取りなどして季節感を味わいながら気分転換にベンチに座り庭先でお茶を飲んだり出来る工夫をしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		1階、2階のトイレにウォシュレットを設置している。又1階、2階の共用空間に鉢など置いてあるので入居者が花の手入れや水やりなどに季節感を味わい居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		外の見えるベンチに座りながら近所のお花に目をやったり、隣の喫茶店に入るお客さんの顔も見れたり1人で過ごせる場所ともなっている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		入居者の居室には写真が飾ってあったり行事の中で頂いた物など、大切に飾ってあったり本人も落ち着いて過ごせるような工夫に取り組んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		トイレは日中換気が必要とし窓を開け、居間はこまめに窓を開け空気入れ換えを行い冷やしすぎや暖めすぎがないよう配慮している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		本人の活動性を維持するため、歩行器等を個人の状態に合わせて取り入れている。階段や廊下、トイレ等入居者の状態に合わせて手すりなどの安全確保と自立への配慮をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>お花には水やり、外に洗濯物を干しに行く、入居者は当然のごとく行ってしまふので、混乱や失敗が生じた場合は職員全員で話し合い本人の不安を取り除き、力を取り戻せる工夫をしている。</p>		<p>入居者一人ひとり出来る事を活かし失敗を防ぎ、入居者の力を見極めて本当に必要な支援をし、自立して暮らせるよう取り組んでいる。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関の外に入居者と一緒に植えたお花が沢山あり、じょうろや長いホースでゆっくり水やりをしながら入居者と花の成長を話したり、ベンチで日向ぼっこが出来よう工夫している。</p>		<p>居間の窓際にも鉢花があるので水やりや枯れた花など取ったりと日常生活の中で活動出来るように活かしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p>	入居者がよく暮らすことが出来るよう安全確保、健康管理や安心感の中にも一人ひとりの力を発揮できるよう手助けをする。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p>	パズルやトランプ、花札、オセロなどを一緒に行ったり、外に出て花の水やりや散歩等ゆったり過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>	一人ひとり好きな落ち着いた思い思いの場所で個性に応じた過ごし方をしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>	入居者の尊厳を守り、一人ひとりの暮らし方の希望やその人らしいあり方を職員が把握し押さえつけない支援に取り組んでいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>	年間行事は勿論、希望があれば買い物又天候が良い日は日常的に公園等出掛けるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>	365日24時間医療連携は出来ていて月2回の訪診と毎週訪問看護があり、年1回健康診断を行っていて安心して信頼関係も出来て不安なく過ごされている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>	本人や家族の要望に応じて暮らし続けていくために必要な支援を家族と話し合い、日々変化する状況等、臨機応変に柔軟な支援を提供している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>○①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p>	家族とは面会時に積極的に日々の様子や体調なども伝え、気軽に相談が出来て家族の理解や協力を得ながらお互いに信頼関係が出来ている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>	フラダンス、ギター演奏、合唱団が毎月1回訪問して下さり、入居者と一緒に歌ったり踊ったりしています。又近所の方も見学に来たり、今年の夏からは新たに周辺の方に働きかけボランティアに来て頂けるようになった。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>運営推進会議が発足したお陰で地域の住民や町内会役員の皆様に知って頂き少しでも受け込み融和を図りたく努力し地域に開かれたサービス、質の向上を図り自治会の総会などでホームのことや認知症の事を理解してもらえ、地域の仲間入りが出来た。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>職員は皆さん優しく思いやりがあり入居者を大切に楽しく働けるホームで職員の人間性がにじみ出ている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>出来るだけ入居者が家庭に近い環境で過ごせるよう、又居心地の良い暮らしの場を提供し入居者も場面ごとに職員に感謝の気持ちを表しています。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>○①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>入居者の家族とは常に状況など説明したり、希望や要望など話し合い、出来るだけ個別性のある支援を行い入居者と家族に喜びと安心のある生活に満足して頂いていると思います。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

運営理念を確認しながら、知識や技術の向上に努めグループホームでの生活を入居者だけでなく職員も楽しめるような雰囲気作り心掛け、小回りのきく柔軟な組織でその時の状況に応じ臨機応変に対応の取れる職員の集まりのグループホームにしたいと日々努力をしています。